語　源　再　考

—辞典等に見る語源説明をめぐって—

(2)

河　野　庸　二

はじめに

思えば昨年（昭和55年）「語源再考」(1) を執筆した時点では，研究社の *New English-Japanese Dictionary*(*Fifth Edition*) は未刊であった。同じく本格派の語学辞書である小学館の「英和中辞典」(*Progressive English-Japanese Dictionary*) が出たのも12月に入ってからであった。周知のとおり，辞書というものはたえず言葉のあとを追いかけているものである。拙稿の中であれこれと既刊の辞典類の不備な点を指摘したところ，その直後に，目を見はるばかりの改訂を施された新版や，文字どおり最新刊の辞書が出版されたわけで，「語源再考」(1) の内容の一部に対して，補足，修正を加えることが必要になってきた。

一方，語源辞書の部類でもその後，John Ciardi の *A Browser's Dictionary* (1980) が出た。そのタイトルが暗示するとおり，いわゆる読むための辞書であって，肩の凝らない記述である。さほどスケールの大きな本ではないが，内容的には，かのモリス夫妻の語源辞書と同工のものといえる。試みに，たまたま両書とも載せている同じ項目の記述内容を読み比べてみると，当然のことながらそれぞれの個性が表われていて興味深いのである。その意味でも本書から教えられたことは少なくない。

新辞書の改良点

昨年後半以降わが国で出版された既述の2種類の英和辞典について，本稿で扱う範囲に関しての，刷新された2・3の点を上げてみよう。まず語彙の面ではどの程度豊富になったであろうか。「語源再考」(1) において，筆者は，「『マリアッチ』(mariachi) という項目を載せている辞典は皆無に近い」ことを指摘し，さらに，「この語が辞書の中に登場するのは遠い先のことで

はあるまい。」と予言したのだったが，この予言ははからずも的中する結果になった。研究社の新大英和，小学館の中英和ともこの語を載せており，前者にはその語源説明までも次のように明記されている。

〖□ Mex.-Sp.～((変形))? F *mariage* 'MARRIAGE'[1]〗

新しく派生した俗語的な語意についても網羅された感がある。例えば研究社の大英和は次のような一項を新たに設けているが，これは *The Random House Dictionary* にも載せていない項目である。

Brooklyn[2] 〖←: Brooklyn が East River をはさんで Manhattan 島の対岸にあることから〕—n. 〖ボウリング〗ブルックリン ((ヘッドピン (headpin) の利き腕と反対側にボールを当てる当て方)).[1]

また，従来の辞書は，例えば horse opera（テレビ・映画などの西部劇），soap opera（ラジオ・テレビの主婦向け連続メロドラマ。さしずめわが国のいわゆる「昼メロ」に相当しよう。）space opera（宇宙冒険番組〔映画〕）などにおける opera に対する定義を欠いでいた。この点も，同じく研究社の大英和によって改善がなされたのである。

opera 4 はでで非現実的な劇：➡horse opera, soap opera.[1]

以上の例からも，旧版から新版への大きな刷新ぶりがある程度うかがい知れよう。

southpaw 補説

研究社の旧版大英和は southpaw の語源については言及していなかった。俗語の語源には言及しないのが旧版の一貫した態度だったのである。新版の大きな特徴の１つは俗語に対しても語源説明を大幅に取り入れたことである。

Chicago の球場のピッチャーの左腕が南向きになる位置にあったところから，または南部出身の左腕投手が多かったことからか[1]

一部旧来の説を踏襲していて，説明自体には新鮮味はないにしても，とにかく readable な辞書になったことはたしかである。一方，小学館の中辞典の同じ項目に載せている説明文は次のとおりである。

〔人が西を向いたとき差手が南側であることより〕[2]

何となく物足りない感じがしないでもないがコンパクトな中辞典としてはこの程度しか書けないのかも知れない。ところで「語源再考」(1) 以来引用してきた2・3の辞書にある，「Chicago の球場云々」の説[3]の出所はどうやらモリス夫妻の著書であるらしい。同書の，かなり詳細にわたる説明文の中には，この表現の生みの親とされるユーモア作家の息子である Finley Peter Dunne, Jr の言葉が引用されている。

> "Acoording to the best authorities I know, including Prof. Elmer Ellis, who wrote my father's biography (Mr. Dooley's America), it was Finley Peter Dunne who originated the expression. The Chicago ballpark faced east and west, with home plate to the west, so a left-handed pitcher threw from the south side. My father, who covered sports for the Chicago News, and Charles Seymour of the Herald were credited with having introduced the modern style of baseball reporting, concentrating on the dramatic moments in the game and giving character to the players. According to Ellis, both Dunne and Seymour were using southpaw in 1887. My father was 20 years old—and it was not until six years later that he started on the humorous pieces about Mr. Dooley that made him famous."[4]

そして，この種の語源辞書としてはおそらく最新のものと思われる John Ciardi の著書には，さすがにこの語をめぐる語源説の集大成ともいうべき，手際よく要約された記述が見られる。

> **southpaw** A lefty. Originally a left-handed pitcher. By extension, any left-handed person and especially an athlete. 〔From the self-elaborating impulse of sportswriting that call a baseball a spheroid and the home team the local aggregate. This one coined in 1880's by

Finley Peter Dunne, who was then a young sports writer for the Chicago News. This whimsy is based on the fact that the Chicago ball park was then laid out with home plate to the west. Hence, a left-handed pitcher would be hurling the spheroid with the "paw" on his south side. But despite the self-conscious artfulness of this sort of thing, northpaw has never come into use.〕[5]

とりわけ，southpaw という表現が，野球のボールを spheroid（回転楕円体），ホーム・チームを local aggregate（地元集合体）と呼ぶ，スポーツ記事特有のわざともったいぶった一連の言いまわしの一例であるとする指摘はオリジナルで印象深い。ただ1点だけ心残りなのは Morris, Ciardi とも，「ホーム・プレートを西に置く」ことのプレー上の必然性，つまり，日照との関連性にはひと言も触れていないことである。

After you, My dear Alphonse（お先にどうぞ）

イギリスの言語学者パートリッジの俗語辞典（*Vol. 2 The Supplement*）には次のような項がある。

after you, Claude—no, after you, Cecil! A c.p. since ca. 1940; by the end of 1946 slightly ob. Ex the B.B.C. programme 'Itma'. E. P. 'Those Radio Phrases' in the Radio Times, Dec. 6, 1946, an article reprinted in *Words at War: Words at Peace*, 1948.
after you, Claude. The Canadian version—by May 1959, slightly ob.—is **after you, my dear Alphonse—no, after you, Gaston.** (Leechman.)[6]

同じ著者の *A Dictionary of Catch Phrases* にも同じ項が設けてあるが，この方は記述がやや詳しくなっているので併せて引用する。

after you, Claude—no, after you, Cecil! Characterizing an old-world, old-time, courtesy, this exchange of civilities occurred in an 'ITMA' show, produced by the BBC in (I seem to remember) 1940. Although it was already, in 1946, slightly obsolescent, yet it is still,

in the latish 1970s, far from being obsolete. The Canadian version, as Dr Douglas Leechman informed me in 1959, is **after you, my dear Alphonse—no, after you, Gaston,** with variant **after you, Alphonse** (Leechman, January 1969. 'In derision of French bowing and scraping')—and was, by 1960, slightly obsolescent, and by 1970, very; current also in US, where, however, it often took the form, **you first, my dear Alphonse** (or **Alfonso**). Note that all of them were spoken in an ingratiating manner. Cf:
after you I come first is an American variant of **after you, Claude**……(Berrey.)[7]

すなわち，After you, Claude—no, after you, Cecil は1940年ごろ，BBC 制作の 'ITMA' show の中で用いられて以来の 'catch phrase' であり，パートリッジの著書のために数々の教示を行なった 'an authority on Canadiana' である Dr Douglas Leechman によれば After you, my dear Alphonse—no, after you, Gaston はそのカナダ版であるというのである。ところが，既述のアメリカの言語学者，ウイリアムおよびメアリ・モリス夫妻の英語語源辞典には，次のような一項があるのである。

an Alphonse and Gaston comes from an old comic strip featuring two Frenchmen who tried to outdo each other in politeness. Each strip would end with them saying to each other: "After you, my dear Alphonse!" "No, after you, my dear Gaston!" When a sportscaster reports that two players have "pulled an Alphonse and Gaston" he is referring to a play in which two outfielders running to catch the same fly each pull back to let the other make the play—with the result that the ball falls safe between them.[4]

つまり，この表現は古い漫画の主人公である２人のフランス人が，ことある毎に馬鹿ていねいに「お先にどうぞ」を連発しあうおかしさが人気を博して一種の流行語となったもののようである。ところが，イギリスの学者であるパートリッジの著書にはその点が言及されていない。パートリッジの主な協力者の１人である Leechman は，これをカナダで行なわれる言いまわしと指摘するに留まっているのである。

ところで，この 'old comic strip' の作者，年代，タイトルについて数種のエンサイクロペディアから情報を拾い集めた結果，Frederick Burr Opper[注] (1857-1937) の *Alphonse and Gaston* (1902) であることが判明した。アメリカの表現がカナダに伝わることは，その地理的状況から見ても，容易であることが想像される。しかもこの漫画が書かれたのは1902年であるから，この流行語の出現はパートリッジの著書に採られたイギリス版よりもはるかに早い時期ということになる。ちなみに，アメリカ語法の中には，人気漫画に端を発するものが少なくないことが知られている。

> "Goon," "drip," "creep,""jeep," "hot dog," and "heebie-jeebies" are among a score of expressions that appeared first in the comic strips and have now passed into national idiom.[8]

さらに興味深いことには，数々の短編アンソロジーに採られた名作 *The Lottery*（くじ）(1948) の作者として知られる Shirley Jackson 女史 (1919-1965) は，まさにそのものずばりのタイトルで，短編，*After You, My Dear Alphonse*[9] (1943) を書いているのである。

（梗概）

ジョニーが遊び友達の黒人少年ボイドを家に連れてくる。

> "Johnny," she called, "you are late. Come in and get your lunch."
> "Just a minute, Mother." Johnny said. "After you, my dear Alphonse."
> "After you, my dear Alphonse." another voice said.
> "No, after you, my dear Alphonse." Johnny said.

ジョニーの母親であるウィルソン夫人は黒人に対してある種の先入観をもっている。食事も満足にできないほど貧しくて，父親は失職中ではないにしても肉体労働者，母親は内職をしていて，家は子だくさん—といったウィルソン夫人の予想は，ボイドの返答によってことごとく裏切られる。ボイドの父親は職工長なので母親は働いてなんかいない。きょうだいは教員志望の姉が１人だけ—つまりボイドの一家は普通の白人の家庭と少しも異なるところがないのである。そうと知ってもなお，夫人は押しつけがましく，古着類を包みにして，ボイドに持たせようかなどと言い出す。ボイドは迷惑そうな顔

をして，自分のうちでは買いたいものは何でも買えるから要らないという。

Mrs. Wilson lifted the plate of gingerbread off the table as Boyd was about to take another piece.

"There are many little boys like you, Boyd, who would be very grateful for the clothes someone was kind enough to give them."

"Boyd will take them if you want him to, Mother," Johnny said.

"I didn't mean to make you mad, Mrs. Wilson," Boyd said.

"Don't think I'm angry, Boyd. I'm just disappointed in you, that's all. Now let's not say anything more about it."

(ウィルソン夫人はボイドがもうひと切れとろうとして手を伸ばした菓子パンの皿をさっと引っ込めた。

「ボイドさん，他人がわざわざあげるといってる着物ならだれでもよろこんでもらうものよ。」

「そんなにいうのならボイドだってもらうよ。」とジョニーがいった。

「おばさん，ぼくべつにおばさんをおこらせるつもりはなかったんだよ。」とボイドがいった。

「腹を立ててるんじゃないの。ただあなたを見そこなっただけ。さあもうそのことはいわないことにしましょう。」)

そして，再び遊びに出ていく2人の会話のやりとりでこの掌編は終わっている。

"After you, my dear Alphonse," Johnny said, holding the door open.

"Is your mother still mad?" Mrs. Wilson heard Boyd ask in a low voice.

"I don't know," Johnny said. "She's screwy sometimes."

"So's mine," Boyd said. He hesitated. "After you, my dear Alphonse."

作者がこの作品において，タイトルに二重の意味を持たせて使っていることはいうまでもない。つまりこのタイトルによってウィルソン夫人の押しつ

けがましい親切をアイロニカルに寓意しようとしているのである。作者の，いかにも女流らしい技巧の巧緻さの一端がここにもうかがわれるのであるが何はともあれ，この作品は1940年代の時点でも，After you, my dear Alphonse が，流行語としてさかんに使われていたことを証明する貴重な資料となっているわけである。さらに注目したいのは，ここでは no, after you, my dear Gaston が用いられず，徹頭徹尾，After you, my dear Alphonse の反復になっている点である。パートリッジの著書にもあるとおり，この言いまわしは，実際にはさまざまな変形を加えられて用いられることが少なくなかったと考えられる。また用例の方もいろいろあり得るわけで，モリスの上げている「外野手のゆずり合い」——フライを追う2人の野手がたがいにゆずり合って捕球しそこなうケースを表わす実況アナウンサーの用語としての an Alphonse and Gaston などはその好例であろう。

hamburger と hamburg steak

ハンバーガーとハンバーグ・ステーキの定義としては，次の例あたりが一応妥当なところであろう。

> **ハンバーガー**　①ハンバーグ・ステーキをパンにはさんだサンドイッチ②ハンバーグ・ステーキの俗称。[10]

> **ハンバーグ・ステーキ**　ひき肉のみじん切りや卵・パン粉・調味料などを加え，円盤形にまとめて油で焼いたもの。ドイツに古くから伝わる料理で，港市ハンブルクにちなんでこう呼ばれる。邦略してハンバーグ。米国ではハンバーガーと俗称される。[10]

さらに補足的な説明として次の記述をつけ加えれば，一般向きの説明としては申し分ないであろう。

> 比較的手軽にでき，経済的であることから，世界的に愛好され，アメリカではこれをパンにはさんだハンバーガーが有名で，軽食などに用いられる。[11]

しかしながら，これだけでは，ハンバーグ・ステーキなり，ハンバーガーな

りの起源を十分に説明したことにはならない。とはいうものの，たいていの辞書の説明はここまでで終わっているのである。Americana のような大きな百科事典は，かえって hamburger, hamburg steak のような項目すら設けていないのである。そして意外にも，アメリカの青少年向きエンサイクロペディアの類に，きわめて行きとどいた，信頼するに足る起源説が見出せるのは皮肉である。

> The people of Estonia, Latvia, and Finland were very fond of red meat, shredded with a rather dull knife and eaten raw. They taught the sailors from Hamburg, Germany, to eat this meat preparation, and gradually the Hamburgers learned to like it, too. Thus, the hamburger got its name from a German city.
>
> Look in the index of any cookbook more than fifty years old for hamburger steak, and it is dollars to doughnuts that the recipe will turn out to be raw meat. In any cookbook published during the past thirty years, you will find the same dish under "Steak Tartare."
>
> The broiled hamburg sandwich, which vies with hot dog as the most popular meat in the United States, was, like the ice-cream cone, supposedly invented at the Louisiana Purchase Exposition of 1904, better known as the St. Louis Fair.[12]

> It (=hamburger) was brought by the Germans who settled in Cincinnati, Ohio. It was put into a bun at the St. Louis Exposition in 1904.[13]

つまり，北欧の人たちの愛好した生肉料理がハンブルグ出身の船員に伝わりやがて彼らの出身地の人たちにも広まったというのである。この料理をアメリカにもたらしたのは，オハイオ州，シンシナチに入植したドイツ人だという。したがってハンバーグ・ステーキは当初においては，いわゆるタルタル・ステーキと同じ生肉料理であったのである。そしてこれを焼いてパンの間にはさんだいわゆるハンバーガーが初めてあらわれたのは1904年のセントルイス博覧会においてであったとする。アイスクリーム・コーンもこの時の発明ということになっているが，大勢の人でごったがえす博覧会場においては何とかして食器なしで食べる工夫が必要であり，その必要がこれらの発明の

母となったであろうとの推測は無理なく成り立つと思う。

なお，ハンバーグ・ステーキの元祖でありタルタル・ステーキとは事実上同じ物である生肉ハンバーグの方は，ドイツ系住民の多い諸都市，たとえばセントルイス，ミルウォーキー，シカゴなどで今でもさかんに食べられているという。[1]

hot dog

ホットドッグが今やアメリカにおいて，ハンバーガーと並び称せられる人気食品であることは，前節に引用した英文の中にもあるとおりである。ところが，ハンバーガーと異なりホットドッグの方はその名称からさまざまな臆測を呼んだものと思われる。

【((1900))：漫画家 T. A. Dorgan の造語？：dog は犬肉を使ったというわさから，または dachshund の形との連想から】[1]

参考(A)hot はからしの辛さからくるという。(B)漫画家ドルガンが，この食品には犬の肉が使われているとの世間のうわさに基づいて作った語といわれる。[10]

上に引用した2種類の本の説明文の書きかたを見ても，この語の語源説に確定的なもののないことが読みとれるはずである。語源説はさておき，ホットドッグという食品の起源の方はどうであろうか。たいていの辞典類がこの点についてはひと言もふれていない中にあって，やはり青少年向きエンサイクロペディアに興味深い話が出ている。

Q Who invented the "hot dog"?

A. Antoine Feuchtwanger, a Babarian sausage peddler, is usually given credit for inventing the hot dog in 1883, in St. Louis. Antoine let his customers borrow white gloves to wear while they ate the hot sausages which were his speciality. But the customers often walked away with the gloves, and with them went Antoine's profits. So he got the idea of putting the sausage in a bun, and that was the first hot dog.[14]

つまり，ドイツ，ババリア出身の，屋台のソーセージ売りアントワーヌ・フォイヒトワンガーが，自慢の料理である熱々のソーセージを食べる間，客に白い手袋を貸していたところ，手袋を持って行かれてしまうことが多いのでパンの中にソーセージをはさみ込むことを思いついたのが始まりだというのである。ただしホットドッグという名称はまだなかった。そこでいよいよ漫画家ドーガンが登場するわけであるが，彼の漫画が今日容易に見られないとすると，せめて彼についてのもう少し詳細な情報が望まれるところである。同エンサイクロペディアはその辺の事情についてこう記している。

> A New York cartoonist, Tad Dorgan, is believed to be the first to call them "hot dogs." He often used them in his cartoons and even gave them little speeches to say.[14]

ドーガンは漫画の中にたびたびホット・ドッグを登場させたばかりではなくホットドッグに発言させたというのである。

一方，モリスの著書には，この語の起源を本格的に研究した H.L. Mencken の調査結果にふれて次のように記されている。

> The first recorded appearance in print of the term hot dog is 1903. H.L. Mencken did some very thorough research on the origins of hot dog. His findings: although sausages in rolls have been sold in this country for many years, the first person to heat the roll and add mustard and relish was Harry Stevens, concessionaire at the Polo Grounds, home of the New York Giants. And the coiner of the name hot dog? None other than the late T.A. Dorgan, "Tad," undoubtedly the best-known sports cartoonist of the era.[4]

従来の，パンにソーセージをはさみ込んだものに対して，パンをあたため，からしと薬味を加えたのは，ニューヨーク・ジャイアンツのホーム・グラウンドである Polo Grounds の営業権保有者ハリー・スティーブンスであってそれをホットドッグと呼んだ T.A. Dorgan は当時最も知られたスポーツ漫画家であったらしい。ドーガンの愛称 'Tad' はたぶん名前の頭文字を集めたものであろう。

上に引用した2種類の記述から総合すると，ホットドッグと命名された直

接の食品は，ポロ球場で売り出された，ハリー・スティーブンス考案の，からし入りの，パンごとあたためたフランクフルト・ソーセージだったことになる。

参考書目

1. *Kenkyusha's New English-Japanese Dictionary*（研究社，1980年）
2. 小学館英和中辞典（小学館，昭和55年）
3. 河野庸二，語源再考(1)（山口大学　英語と英米文学 第15号，60ページ参照）
4. William and Mary Morris, *Morris Dictionary of Word and Phrase Origins*, (Harper & Row, 1980)
5. John Ciardi, *A Browser's Dictionary*, (Harper & Row, 1980)
6. Eric Partridge, *A Dictionary of Slang and Unconventional English, Vol II: The Supplement*, (Routledge & Kegan Paul, 1979)
7. Eric Partridge, *A Dictionary of Catch Phrases*, (Routledge & Kegan Paul, 1979)
8. *Encyclopedia Americana*, (Grolier, 1966), Comics の項.
9. Robert C. Pooley, general editor, *America Reads* 全6巻中の *Outlook through Literature*,（アメリカの high school 教科書）所収.
10. 吉沢典男／石綿敏雄著，外来語の語源，（角川書店，昭和54年）
11. ブリタニカ国際大百科事典（TBS ブリタニカ，昭和49年）
12. *Our Wonderful World, Vol. 14, The Story of the Hamburger* の項，(Grolier, 1965)
13. *The New Book of Knowledge, Vol.* 6, *Food* の項. (Grolier, 1972)
14. *Our Wonderful World, Vol. 9, Quiz for Meat Eaters* の項. (Grolier, 1965)

注

興味深いことに，Opper は，southpaw 補説の章で言及したユーモア作家 Finley Peter Dunne の作品のさしえも描いている。漫画家がユーモア作家の作品をさしえを描くケースは日本でもよくあることだが，本編の全く別個の章で扱った2人の人物が，偶然にも，意外なところで結びついていたわけである。

He illustrated the works of Mark Twain, Bill Nye, Eugene Field, and Finley P. Dunne....

(The Columbia Encyclopedia, Columbia University Press, 1963, Opper の項)